

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

|                 |                                 |                                  |             |
|-----------------|---------------------------------|----------------------------------|-------------|
| 地域課題タイトル<br>(注) | No.<br>(事務局用)                   | タイトル<br>データ活用による新潟市の魅力発信力のパワーアップ | 自治体名<br>新潟市 |
| アイデア名<br>(公開)   | もっと知りたい地域のこと～協働で進める地域の情報発信のあり方～ |                                  |             |

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

### 1. 応募者情報

|            |  |       |  |
|------------|--|-------|--|
| チーム名 (公開)  | Code for Niigata + 新潟大学・大串ゼミ   |       |  |
| チーム属性 (公開) | <input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム |       |  |
| 代表者情報      | 氏名 (公開)  | 山田 道也 |  |

#### ※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

#### (注意書き)

##### <応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

##### <公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

##### <チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何を、どこで、いつ、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

データを活用した都市の魅力発信の考え方として、取り組みの過程で、

#### (1) データ活用のためのツール提供 ※アイデア 1

数値データ分析に基づく都市の特長・魅力の発掘・発信

#### (2) 生活にすぐに役立つ情報の提供 ※アイデア 2

来訪者・新来者のニーズに対応するデータ・情報

の提供のふたつの異なるアプローチが重要であるという認識に至りました。

また、こうした取り組みの継続性を強化し、市民と行政の繋がりを強めていくため、

#### (3) 市民と行政の間での機会や成果のシェア ※アイデア 1、2 から派生した取り組み

成果物そのもののほかに、互いのリソースや機会を提供しあう市民と行政の関係づくりにも注力すべきと考えました。

##### 【アイデア 1】データ活用のためのツール提供

統計データを中心とする既存のデータから都市の特徴の洗い出し・発見を促す相関グラフ自動生成アプリ「相関をみる」の構築・提供

- 主体 Code for Niigata
- 成果（物） Web アプリのサービス「相関をみる」
- 実現時期 2016 年 11 月からベータ版提供開始済み (<http://codeforniigata.org/tk/>)

##### 【アイデア 2】生活にすぐに役立つ情報の提供

新潟大学・大串ゼミでの成果に基づいた、Code for Niigata の今後の取り組み検討

- 主体 Code for Niigata
- 成果（物） 新潟大学・大串ゼミでのワークで得られたアイデアの実現
  - ① ゲーム要素を含んだ情報サイトへの誘導の方法 (ex.「切羽詰っている」ボタンの応用)
  - ② 生活を便利にする地図情報の整備 (ex.「観光情報」、「居酒屋を探す」など)
  - ③ ①、②の実現にあたり、多くの市民の力を取り込むための取り組みや仕掛けづくり
- 実現時期 2017 年以降

##### 【アイデア 1、2 から派生した取り組み】互いのリソースや機会を提供しあう市民と行政の関係づくり

新潟市公式 HP “新潟市 Happy ターン” リニューアル協力

- 主体 サイトのリニューアル/新潟市、情報提供・意見聴取機会アレンジ/Code for Niigata
- 成果（物） 新潟市公式 HP “新潟市 Happy ターン” リニューアル（最終成果物）
 

Code for Niigata は、サイトリニューアルにあたり次のような協力を行う

  - ① 新潟大学・大串ゼミ第 1 回～第 3 回の成果について、リニューアルの参考として新潟市と情報共有
  - ② リニューアルに対する意見聴取機会のアレンジ（新潟大・大串ゼミ）
- 実現時期 2016 年 12 月（※サイトのリニューアル時期 関係づくりは継続的に行う）

## (2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いします。

私たちは、一連の取り組みにあたり、役所がルールを敷いた市民協働ではなく、自律した計画のもと、自らのリソースと意欲・能力を生かした、市民サイドの自発的な協働のスタイルを目指しました。

そこで、まずは自分たちの持ちうるリソースについて検討するとともに、取り組みの成果として何を徳たいかを話し合いました。また、市民と行政の協働のプロセスを都度注視し、協働のありかたの設計に生かしたいと考えました。

### 1. アイデアの論拠

アイデアの検討過程は次のとおり

- Code for Niigataメンバーによるブレインストーミング（2016年9月25日）

取り組む上で活用できるリソースと、取り組みの目標についてディスカッションを行った。

- 取り組むにあたってのリソース

- ① データ類 新潟市が公式サイトに示したデータ、国の統計データ・調査データ
- ② ツール・アプリケーション等「マッピング」、「タイムラプス」、「Pics※」、「相関をみる※」  
※はCode for Niigata オリジナルのアプリケーション
- ③ 想定される協働者 新潟市、地元大学（新潟大、新潟国際情報大、新潟県立大）

- 取り組みにおいて目標とすること

- ① 拡げる力のエンパワメント（市役所・市民のメディア・ICTリテラシー向上）
- ② 都市の魅力の発掘と深堀り
- ③ インナーブランディング（在住者の意識を変える）

- 新潟大学・経済学部 大串ゼミにおけるワーク

【第1回：統計から都市の特性を知る（2016年11月30日）】

Webアプリ「相関をみる」を利用した都市特性の掘り起こしと、魅力と感じられる点についてディスカッション  
〈主な意見〉都市の魅力「交通利便性（都市間アクセス）」、「治安のよさ」、「程よさ」、「食・見どころなどカギとなるコンテンツ」を、SNS・スマホアプリ・動画など旬の手法で発信。同時にまちなかの整備が必要

【第2回：都市の魅力伝える手法のレビュー 移住促進サイト比較を中心に（2016年12月7日）】

掘り起こした都市の特性をより効果的に訴求するためのコンテンツについてディスカッション  
〈主な意見〉「訪問者・新来者がまちで便利に過ごすための情報が得られることも都市の魅力のひとつ」。数値データ以外に「実際に移住した人の体験談を知りたい」、「新潟市も都会的なイメージをより打ち出してほしい」、「現実の多様なニーズにもとづいた情報の提供が重要」

【第3回：都市の魅力伝えるアイデアとサービスの設計（2016年12月14日）】

定性情報も含むどのようなデータをどのように伝えと、都市の特長をよりよく訴求できるかについてワーク  
〈主な意見〉ウェブサイトのテーマとして「就農」、「暮らしやすさ・教育コストなど情報」、「イベント・観光（酒）ナビ」、「独特の施策紹介」、「市民コミュニティ紹介」、仕掛けとして「切羽詰っている」ボタン。

【第4回：新潟市公式HPリニューアルに関する提案（2016年12月21日）】

新潟市公式HP（移住定住促進のためのサイト）“新潟市Happyターン”リニューアルと、サイトの活用方法について提案

〈主な意見〉市民・子供たちはマッピングをつうじて地域を再発見できる。地理情報を使ったゲームで楽しみながら地域を知ることができる。コンテンツとしてラーメンや温泉施設。あまり知られていないがレトロ自販機にマニアがいる。夜景・眺望スポット。

## 2. 数値データ、情報、証拠

- 統計データなど数値データ

主に、国の統計および大都市比較統計年表（横浜市統計ポータルサイト内）の統計データについて、20 政令市のデータを収集し活用する。

- 新潟市魅力データ

新潟市が収集した、新潟市を特徴づける「全国初」、「日本一」、「政令市 1 位」などのデータ（定性情報を含む）を活用する。

【活用の例】

- ウェブアプリ「相関をみる」に、20 政令市のデータを流し込み、各指標の相関を可視化。都市の特長分析を支援する。
- 住みよさ判定、相性占いなど、ゲーム要素のあるアプリケーションの演算の条件として 20 政令市データを利用する。

- 意見・アイデア（新潟大学大串ゼミを中心に）

既存の移住定住促進ウェブサイトのレビューや、「都市の魅力」、「住みたい都市」、「欲しい情報」についての意見・アイデア出しから得られた定性情報

【活用の例】

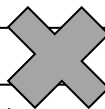
- 都市の特長・魅力について、何をどのような媒体で人々に訴求するべきかの検討に生かす
- 生活に必要な情報としてどのような情報にニーズ/収集方法/提供方法があるかの検討に生かす。
- 上記 2 点を、Code for Niigata および新潟市のそれぞれの取り組みの設計に落とし込む

## 3. データとアイデアの関係

データ・情報を収集し、そこに意見やアイデアを掛け合わせて、Code for Niigata で技術を提供し、成果物を実現させます。各プロセスの成果のみならず、プロセスの設計もまた、この取り組みの成果のひとつと考えます。

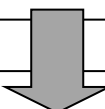
データ・情報

- ・ データの収集（統計をみる、文献をあたる、アンケート・聞き取り調査を行う、など）
- ・ データセットの作成



意見  
アイデア

- ・ データの可視化・ビジュアライゼーション
- ・ 媒体（Web、タブレット・スマホアプリ、印刷物、相対（ワークショップ、シンポジウム））
- ・ 仕掛け（動画、SNS 活用、キャラクター化、ゲーム要素、投稿フォームなど人々を巻き込むためのインターフェイス）



成果物  
（実現）

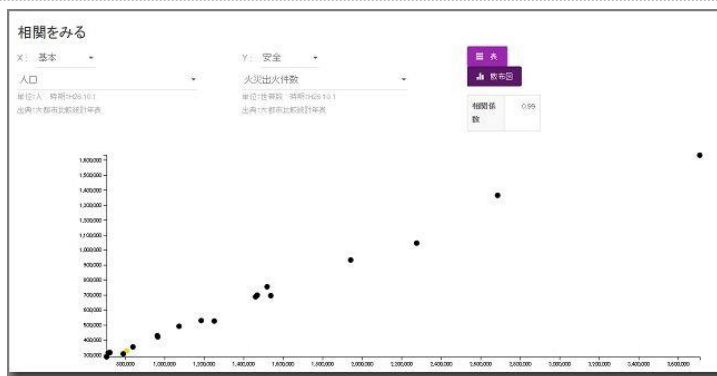
- ・ データ・情報発信のための様々なアプリケーションの提供（ICT アプローチ）
- ・ 意見やアイデアの発掘や集合知形成のプラットフォームの提供（ICT アプローチ）
- ・ ワorkshop等の人々の巻き込み機会の設計と実施（非 ICT アプローチ）

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

#### 【アイデア 1】データ活用のためのツール提供

- 主体 Code for Niigata
- 成果（物）ウェブアプリ「相関をみる」
- 実現時期 2016年11月からベータ版提供開始済み
- 今後の取り組み 利用者が任意のデータを用いてアプリケーションを活用できるよう、機能拡張を図る。機能拡張のための開発はCode for Niigataが行い、将来は「相関をみる」の機能を様々な人々・団体が自由に利用できるように公開し、都市の特性分析のために広く役立てるようにする。機能拡張実現の目途として、2017年3月を予定している。



←ウェブアプリ「相関をみる」

<http://codeforniigata.org/tk/>

#### 【アイデア 2】生活にすぐに役立つ情報の提供

- 主体 Code for Niigata
- 成果（物）新潟大学・大串ゼミでのワークで得られたアイデアの実現
  - ① ゲーム要素を含んだ情報サイトへの誘導の方法（ex.「切羽詰っている」ボタンの応用）
  - ② 生活を便利にする地図情報の整備（ex.「観光情報」、「居酒屋を探す」など）
  - ③ ①、②の実現にあたり、多くの市民の力を取り込むための取り組みや仕掛けづくり
- 実現時期 2017年以降
- 今後の取り組み ①については、2017年3月までに、ゲーム要素を含んだ新潟市公式の情報サイトへの誘導の仕組み開発・公開する。①の拡張機能（仕組みの公開化）および、地図情報の整備は、2017年度（～2018年3月）のCode for Niigataの事業と位置づけ、引き続き取り組む。

#### 【アイデア 1, 2 から派生した取り組み】互いのリソースや機会を提供しあう市民と行政の関係づくり

- 主体 サイトのリニューアル/新潟市、情報提供・意見聴取機会アレンジ/Code for Niigata
- 成果（物）新潟市公式 HP “新潟市 Happy ターン” リニューアル（最終成果物）  
Code for Niigata は、アイデア 1、2 の取り組みで得られた情報や機会のシェアをつづけて、サイトリニューアルにあたり次のような協力を行う
  - ① 新潟大学・大串ゼミ第1回～第3回の成果について新潟市と情報共有
  - ② リニューアルに対する意見聴取機会のアレンジ（新潟大・大串ゼミの協力）
- 実現時期 2016年12月
- 今後の取り組み 引き続き、市との間で情報やアイデア、機会のシェアを行う。

#### (4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現にあたっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

##### 1. 自主自律の姿勢・取り組みを進化させる

私たち Code for Niigata は、「コードを紡いで、地域を繋ぐ」を組織のタグラインとし、新潟をもっと楽しく、もっと住みやすい街にするために、ICT を活用してアプリケーションを作ったりウェブサービスを提供したりすることを目的とする有志の集まりです。

今回の取り組みにおいては、自分たちがなすべきことについて枠組みや役割を与えられることを待つのではなく、自主自律の姿勢で、自分たちの持ちうるリソースを発揮し、意欲をもって自発的に取り組めることと、公（行政・市民）のニーズを満たすことの両方にマッチする取り組みを愚直に模索することから取り組みを始めました。つまり、枠組みや役割、ゴールを決め打ちする（される）ことなく、積み重ねにより地域の真のニーズを探り、必要とされるところに“パッチを当てていく”やり方です。

手始めに、ウェブアプリの「相関をみる」をリリースし、都市の特性の考察から地域の魅力の深掘りを進めてもらうことを計画しました。このウェブアプリは、元は Code for Niigata メンバーの中で温めていたアイデアのひとつで、地域の状況や事象を分析する様々な場面において役立つことを想定していました。

その後、地域の新潟大学・大串ゼミにおけるワークを経て、実生活に直接役に立つ情報の提供に強いニーズがあり、都市の魅力を訴求するためにはこちらも重要であることがわかりました。

実生活に役立つ情報の分野では、すでに私たちには、地図情報（OpenStreetmap）の更新や、それをベースとし、タブレットやスマートフォンから簡単に操作できるワンテマの街歩きイベント用の独自アプリケーション“Pics”や、様々なツールを使ったワークショップ運営の経験があります。こうしたリソースとニーズをつなぎ合わせ、私たち Code for Niigata の今後の活動メニューに加えていきます。

このように、真のニーズを主体的に探りつつ、必要とされるところに自分たちのリソースを柔軟に提供する進め方が、私たちの取り組みの特徴です。

##### 2. 普遍的ツールとしての可能性

政令市データ分析のために制作したウェブアプリ「相関をみる」は、今後、利用者が任意のデータを流し込むことによって、データ同士の相関を可視化できるツールとして機能を拡張し、公開します。

データを用いて政策や事業を立案することを支援するツールとして、今回の取り組みに留まることなく、必要としている人々に将来にわたり広く共有され、活用されることを目指しています。

##### 3. 取り組み成果のシェア

当初の想定はありませんでしたが、新潟市への移住・定住促進事業を所管する、新潟市役所・新潟暮らし奨励課が提供しているサイトのリニューアル（新設）検討と時期が重なったため、取り組みを通じて得られた情報と機会について共有することで、公式ホームページのリニューアルに協力しました。